

いるま

第 36 号

題字 会長
令和2年10月1日
発行者
井 上 清

新たな「日常」を求めて

会長 井上 清



「日常」とは、広辞苑によると「つねにひびく」「ふだん」「平常」

「平生」とある。しかし、今年、前半の生活を振り返ると、二月に中国・武漢で「新型コロナウイルス」の発生が報じられて以来、国内外の発生数や様々の「日常」が異なる有様に接することとなった。

人間地区退職校長会も予定していた諸行事の見直しを図り、五月九日に飯能市で予定していた定期総会を中止した。

そのために、総会要項を代議員の皆さんに配布し検討をいただいた。特に異議はなく、承認していただいたものと承知している。

新入会員は三〇名を数え、今回予定していた「新入会員交流の集い」も中止となり、代替措置として会報「いるま」に氏名を掲載した。

更に「彩の国・教育の日協賛 教育推進研究協議会」も会員並びに現職校長の命と健康を守る重大性から中止となった。当日、発表を予定していた三名の方々には会報「いるま」での紙上発表の形を取らせていただくこととなった。

また、小中学校では分散登校や机の間隔を開けるなどの工夫をして、お互いの健康と安全を守るな

新学習指導要領の実施

西部教育事務所長 福島 みどり



人間地区退職校長会の皆様には、日頃、人間地区の教育の充実・発展のために、多大なる御支援・御協力をいただいておりますこと

心から感謝申し上げます。今、学校では、新型コロナウイルス

ど現場での苦労は大変のようである。コロナ禍は、いつ終息するかわからない。半年後は今以上に深刻になっているかもしれない。しかし、この苦難の中から「三密を避ける工夫」「マスクの着用」「手を洗う」などの生活が定着してきている。お互いに感染対策を施して安心を得るといふ社会常識が生まれたと考える。

また、社会的には「テレワーク」や「オンライン」などコンピュータの活用が情報化社会に欠かせないものとなった。身近に週四日在宅勤務とか週一回の出勤で勤務したことになるなどである。距離を置いての仕事の普及は新しい日常を生んだ。最後に、一刻も早いワクチンの出現を望む。

質の高い学びの実現を目指して

ルス感染症対策と子供たちの健全な学びの保障を両立すべく、創意工夫しながら教育活動を進めております。学校再開後の子供たちの笑顔に、日々、様々な教育活動を行うことができることの有難さを実感しています。子供たちにとって、学校がより豊かな学びの場となるよう、市町村教育委員会と

連携し、力を尽くしてまいります。

さて、今年度、第三期埼玉県教育振興基本計画が二年目となります。「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」を基本理念とし、県民の誰もが参画し得る生涯を通じた多様な学びで、人生や社会の未来を切り拓く力を育むことを目指しています。また、新学習指導要領が、小学校は今年度から、中学校は来年度から全面实施となります。子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が強く求められています。西部教育事務所としても学校訪問等を通して、各学校の取組を支援し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進してまいります。

さらに、学校における働き方改革を推進し、教職員が心身ともに健康で子供たちと向き合い、質の高い教育活動を行うことができるよう支援してまいります。

退職校長会の皆様には、長年培われた豊富な知識や経験をもとに、今後とも多岐にわたり御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、人間地区退職校長会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げます。

令和二年度定期総会

「コロナ禍の中で」

人間地区退職校長会幹事長 柳 榮治

二月に国から新型コロナウイルス感染症対策基本方針、三月に全国一斉の学校休校、四月には緊急事態宣言が発出され、外出の自粛要請が示されました。

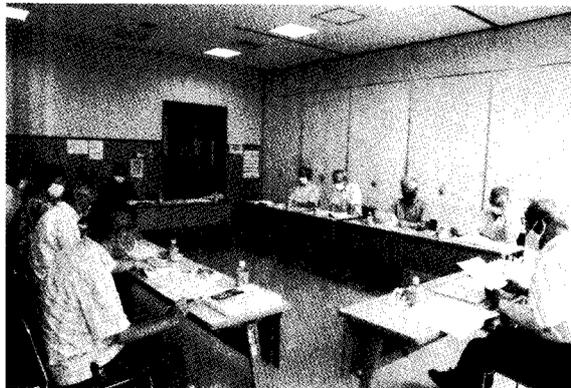
本会では、三密の回避や飛沫感染の予防が十分にできないこと、多人数が集まる会議での感染リスクを心配し、会員の皆様の命と健康を守ることを第一に考え、四月三日の新旧理事会と五月九日「マロウドイン飯能」での総会を中止

とさせていただきます。総会に向けてこれまでご準備していただいた飯能班実施委員の皆様へ感謝申し上げます。

さて、総会中止に伴う今後の対応について本部会で検討した結果、二月三日の理事会で総会の各議案等については、審議していただいていることから、総会代替措置として、左記の対応を実施することと令和二年度の総会に代えることといたしました。

- ① 総会要項を代議員に配布し、各議案について意見を募る。
- ② 意見等については、本部会で協議し、必要であれば総会要項を修正する。
- ③ 意見等が寄せられた場合には代議員に回答する。各議案の議決の結果については、代議員に報告する。また、議案の議決については、本部会で協議の上、会長一任の了承を得ている。

以上のような経過を経て、六月五日に本部会を開催しました。令和元年度事業報告では、オー



三密避けての本部役員会

令和二年度 新会員紹介

30名(敬称略)

氏名	氏名	氏名	氏名
高柳 青生	高柳 青生	高柳 青生	高柳 青生
北川 直也	北川 直也	北川 直也	北川 直也
美藤 篤武	美藤 篤武	美藤 篤武	美藤 篤武
弘佳 高沢	弘佳 高沢	弘佳 高沢	弘佳 高沢
夫貞 小峰	夫貞 小峰	夫貞 小峰	夫貞 小峰
巳克 吉川	巳克 吉川	巳克 吉川	巳克 吉川
平一 中田	平一 中田	平一 中田	平一 中田
美和 広田	美和 広田	美和 広田	美和 広田
彦彦 川勝	彦彦 川勝	彦彦 川勝	彦彦 川勝
人直 矢武	人直 矢武	人直 矢武	人直 矢武
人秀 松尾	人秀 松尾	人秀 松尾	人秀 松尾
秀和 佐藤	秀和 佐藤	秀和 佐藤	秀和 佐藤
栄典 千代田	栄典 千代田	栄典 千代田	栄典 千代田
実一 齊藤	実一 齊藤	実一 齊藤	実一 齊藤
康一 小林	康一 小林	康一 小林	康一 小林

ル入間で実施した県総会、新入会員の交流の集い、人間地区会員名簿の作成等。決算報告では、地区振興費の百円増額等。

令和二年度役員承認。事業計画案では、総会開催日を金曜日から土曜日午後への変更。教育推進研究協議会開催日は、金曜日から火曜日へ変更。予算案では、経費節減に努める等。各議案を慎重に審議した結果、会長より原案通り可決する旨の発言があり、令和二年度総会が成立しました。これまで、会員の皆様には、ご

理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。ご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和二年度の事業が軒並み中止となりました。

- ・ 新入会員の交流の集い
- ・ 会員研修及び親睦旅行
- ・ 教育推進研究協議会準備会
- ・ 教育推進研究協議会誌上発表として会報「いるま」に掲載予定です。

コロナ禍の中ですが、今後も本会の充実発展に努める所存です。

会報「いるま」の歩み

号数	発行年月	会員数	会長名	研修旅行(行き先・参加者数)	作品の窓
創刊号 ※1	平成 15.3	560	安永 郁郎	天橋立・兼六園 30名 ◎以後2泊3日で7月に実施	俳句・短歌
2 ※2	15.9	578	〃	利尻島・礼文島 40名	俳句
3	16.3		〃		俳句
4	16.9	579	小鹿野芳壽	上高地・穂高岳 44名	短歌
5	17.3		〃		川柳
6	17.9	597	〃	三内丸山遺跡・白神山地 44名	詩
7	18.3		〃		短歌
8 ※3	18.9	589	〃	知床半島・釧路湿原 53名	俳句
9	19.3		〃		短歌
10	19.9	605	〃	高野山・熊野古道 48名	詩
11 ※4	20.3		〃		俳句・短歌
12	20.9	626	〃	石見銀山・秋吉台 50名	童話
13	21.3		〃		児童俳句
14	21.9	653	〃	国東半島・吉野ヶ里遺跡 44名	俳句・短歌
15	22.3		〃		写真
16 ※5	22.9	670	〃	松山城・足摺岬 37名	絵画
17 ※6	23.3		〃		俳句・短歌・川柳
18	23.9	678	鈴木 秀昭		折り紙人形・書
19	24.3		〃	箱根・西伊豆 28名 ◎11月に1泊2日で実施	東部班作品展
20	24.9	692	〃	小樽・函館 34名	俳句・短歌・川柳
21	25.3		〃		漢詩
22	25.9	704	〃	小豆島・鳴門海峡 27名	写真
23	26.3		〃		俳句・短歌・川柳
24 ※7	26.9	714	〃	富士山・三保の松原 40名	工芸・書
25	27.3		〃		所沢班作品展
26	27.9	711	塩原 勇	浄土平・塩屋埼灯台 34名	短歌
27	28.3		〃		絵画
28	28.9	707	〃	筑波山・予科練平和記念館 28名	写真
29	29.3		〃		俳句
30	29.9	704	井上 清	浜名湖・井伊谷 28名	絵画
31 ※8	30.2		〃		俳句・短歌
32	30.9	714	〃	上田城・松代地下壕 25名	写真
33	31.2		〃		絵画
34	令和元.9	720	〃	鋸山・野島埼灯台 26名	俳句・川柳
35	2.2		〃		写真
36 ※9	2.10	720	〃	(新型コロナウイルス感染拡大のため中止)	書

※1 B5判6頁、編集委員6名

※3 今号より現職校長にも配布

※5 今号よりB5判をA4判に改める

※7 今年度より研修旅行は1泊2日に改める

※9 今号のみ10月1日発行

※2 今号より年2回(9月・2月)発行

※4 文芸欄を「作品の窓」に改める

※6 今号より8頁に改める

※8 今号より2月1日発行

(文責 比留間 英雄)

会員の声

鯉釣りとギターを楽しむ

川越 高野明夫

趣味は鯉釣りとギター。鯉釣りはキャンピングカーで遠征。捜索願が出されない程度に湖や川で車中泊。これまでの記録は、青魚の一四五センチと鯉の一〇三センチ、釣りバカが止まらない。

ギターは、クラシックや歌謡曲、映画音楽、童謡などを練習。毎年コンサートを開催。公民館の高齢者講座や福祉施設などへのボランティアに参加。自治会長として、地域とのかかわりが多い昨今、健康に気をつけながら趣味を満喫している。すべての出会いに感謝。

「総じて人生は短い。だからラップの消えぬ間に生を楽しめよ」やりたいことをやりなさい。後で後悔しなさんな。オーストリアの医師・小説家でもあったアルチュール・シュニツラーの言葉に思いを寄せて。

新しい生活

狭山 江原昭二

校長を退職して五年、再任用も終わり、今年度から完全に仕事から離れた。また、新型コロナウイルス

ルスの影響もあり制限のある生活を強いられているので、何をしたいのか分からない日々を過ごしている。

趣味のゴルフをコッコツとやりたいのだが、人との接触を控えないければならないので十分できない。そこで家庭の中にいる時間を充実したいと考え「男の料理」を始めた。以前から少しはやってはいたが、頑張ってみることにした。そばやうどん、カレーライスやパスタなど作ってみると奥は深い。しかも、家族が喜んでくれるのでやりがいがある。

新型コロナウイルスという厄介な問題にどのように対処しているのか課題も多いが、これからも健康に注意して前向きに生活していきたい。

交流サロンの運営に関わって

日高 鯉沼文夫

退職してから八年。現在、退職後に携わった社協での経験を生かして、地元の交流サロン活動の運営に関わっている。

月一回、第二日曜日に開催。合唱・健康体操・そばづくりなど、健康増進や趣味・教養を高める活

動をとおして、会員相互の交流を深めており、大変好評を得ている。

男性の割合が高く、活動内容が多様なものになっているのが他地区にない特色となっている。また、高齢者の防災活動支援につながる事例も生まれている。

今、新型コロナウイルス感染拡大のためにこの活動は休止している。この間、みんなの笑顔を思い出し、サロンの意義を再確認するとともに、コロナに打ち勝ち、より充実したサロン運営に取り組む決意を新たにしているところである。

囲碁・畑・卓球

坂戸 小島 勉

退職して十三年目に入り、今は囲碁の日、畑の日、卓球の日と忙しい毎日を送っています。

囲碁を熱心にやり始めたのは退職後です。ある公民館には、埼玉県で囲碁のトップクラスだった先生がいて、熱心に教えてくださいます。私はなかなか強くなれません。

畑は、週に三日間ほどやっています。作っている物は、ジャガイモ、サトイモ、スイカ等々です。雑草取りに追われる毎日ですが収穫できたときには嬉しいものです。特にスイカは、孫の所に持って行

くと大喜びで食べます。

卓球は、体を鍛えるつもりでやっています。長い休憩時間に話の花が咲き毎回大笑いしています。この三つのことは、どれも人間関係を大事にしてやっています。

校長は、幸運でなければ……

所沢 吉田和生

学校現場では、コロナウイルスの対応に、今こそ校長のリーダーシップが求められています。

そんな時、前埼玉県教育長の関根先生が、ある業界紙に新任校長にむけて「提言」を載せていました。

内容は、校長としての矜持をどう持つか。愉快を忘れない。人を嫌わない。幸運でいるには、努力が必要である。人は変えられないが、変わり得ると信じる努力を続けるなど、どれも校長として含蓄のあるものです。それらを私の拙い校長職にあててみると「校長は、幸運でなければならぬ」が今一番心に沁みるところです。

私は、生徒・保護者など多くの方に恵まれ、本当に「幸運」でした。ここで今までいただいた「幸運」に感謝し、お礼を伝えさせていただきます。今後も、よろしくお願い致します。

バンコクでの小学校理科授業 入間東部 清水 修

現役時代は中学校理科を担当しました。退職後は在外教育施設への派遣の機会を与えられ、小学生と理科を学ぶチャンスを得ました。小学校理科は中学に比べ議論に時間を割くことができ、子供たちとの楽しい時間を作り出せます。「理科の理は理由の理、理科は根拠を考える教科だ」を目標に授業を進めました。同じ結論でも根拠が違えば別の意見だ！と言い続け、子供たちの発表を促しました。

テレビのトーク番組のような楽しい時間を目指しました。グループ討議や個人発表を取り入れた授業は、科学的思考力を高める一方策であることが確認できました。苦戦続きの三年間ではありましたが、これまでに得た経験を生かし、エビデンスを追求する理科授業の実現に近づけた日々でした。

更生保護活動の充実のために 入間 細谷克巳

私は、定年退職した五月から保護司を依頼され、八年目を迎えました。日々、犯罪や非行のない安全・安心な社会の実現のため、更生保護の充実に努めています。

保護司としての活動は、年二回の全国の刑務所の視察研修です。そこでは犯罪状況や社会復帰を目指す人たちの具体的援助方法等、さまざまな研修を行います。また、定期的な地区の情報交換のための会議、いろいろな施設での社会を明るくする運動等多岐にわたります。

再犯率の高い状況下の中、社会復帰後に一人でも多く自律した社会生活が送れるよう、持続可能な就労への助言や援助活動に努めていきたいと思っています。

地域自治会では、昨年自治会長を務め地域の安全や発展の一助となるよう、住民の意見を参考にしながら任務を果たしました。

新たなチャレンジ 所沢 草村久美子

退職して二年目の今年の四月、私は防衛医大の院内学級(通称「ひまわり学級」)の担任として所沢市立中央中学校に着任しました。

小児科に入院している中学生の様々な不安を少しでも軽減し、退院後スムーズに学校に戻ることができるように支援しています。具体的には、全教科と自立活動の授業を行うのですが、その日の体調によつては、病院のベッドサイド

で学習を進めることもあります。私などに務まるか心配でしたが、医師や看護師さん、保護者や原籍校の先生方、そして病気や怪我を克服しようとしたむきに頑張る生徒達に支えられて、新たなチャレンジに一步踏み出したところです。

自粛の日々が続く中、光が 飯能 市川 進

新型コロナウイルスの影響下、歌声喫茶での演奏や「狭山市学童保育室を支え学ぶ会」の活動、講演活動が二月ですべて休止、じつと我慢の日々である。仲間との活動や、歌声を一緒にするお客様との交流の素晴らしさを今更のように感じる日々である。

この自粛を逆手に取り、実家の母への親孝行を週三日間にした。この八月で白寿となり、秩父での一人暮らしを頑張っている。なんともその力に敬服してしまう。

残りの四日間は毎日一〇キロのゆつくりジョギングをノルマにしている。それとともに、妻の実家の庭師見習いのようなことも始めてみた。

そんな中、人権教育研修会講師のお話を今年も頂いた。「人権教育語りと歌」。もう少し続けたい。

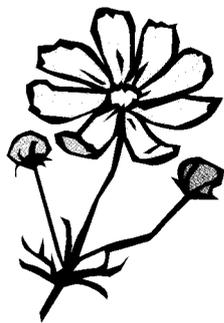
セカンドライフを楽しむために 川越 小林 晃

本年度より、本会のお仲間に加えていただきました。

退職当初は新型コロナウイルス対応に振り回されていた感があり、退職初日の自分がどうであったか、鮮明な記憶がありません。しかし、退職後の最初の土曜日、四月四日の朝、今までずっと頭の片隅にあった何かがなくなり、すっきりした感覚を味わった時に初めて「退職」を実感したように思います。もう少しの間、学校教育に関わる機会をいただきつつ、「あいいうえお(愛・命・運・縁・恩)の大事」を大切にしながら、ゆつくり

と、第二の人生を楽しんでいきたいと思っています。

会員の皆さまには、健康の保持増進をはじめ、豊かなセカンドライフへのご指南、どうぞよろしくお願いいたします。



班だより

退職校長会の活動と課題

坂戸班 小川 孝

本年度は、一名の新会員を加えて六六名の会員でスタート。新型コロナウイルス蔓延のため総会は書面審議となり、役員会も中止となる令和二年度のスタート。本市退職校長会一年の主な行事と課題について述べる。

(一) 総会。例年四月下旬に実施総会後懇親会を行い、親睦を深めているが、参加者が固定し、参加者が増えないことが課題。

(二) 現職校長会との教育懇話会。この行事は既に三十数回を重ね、毎年六月下旬に開催。当日は市教育長より坂戸市の教育の現状や課題についての講話後、中学校区ごとに集まり、懇親を深め懇談。退職後の会員にとって坂戸市小・中学校の現状等を理解する大切な機会となっている。退職校長会にとって年間の大きな行事のひとつ。

(三) 一泊研修旅行。例年九月月上旬に実施。昨年は名古屋城、岐阜城、犬山城等の見学。夜は長良川温泉に宿泊。十数名参加。北部班の校長会にも参加を呼びかけている。二十年以上続いている行事。

(四) 日帰りの史跡巡り。例年三



研修旅行 (犬山城にて)

月実施。昨年度はコロナのため中止。旅行担当の負担軽減と会員の要望等により、本年度より泊を伴う旅行と日帰り史跡巡りを隔年で実施することとなる。

(五) 役員会は年に三回。会長、副会長、顧問、理事、幹事の二十三名で構成。県、人間地区の報告や各種行事、今後の退職校長会の在り方等について協議。

(六) 今後の課題として、会員相互の研修機会の設定。市内で退職した方へ加入してもらう働きかけの工夫。今後の退職校長会の在り方、進め方等知恵を出し合い進めていくことが肝要である。

事業中止の中で

所沢班 鈴木良明

六月九日所沢駅東口、朝七時四十五分。十年ぶりで新潟県(湯田上温泉)へ一泊二日の「けやき会」親睦旅行のバス出発。

コンビニでお酒類を購入。会長の挨拶後、「楽しい二日間を！」と乾杯。「差し入れ大歓迎」の案内に添えていただいた日本酒、ワイン、おつまみ等を味わいながら盛り上がり、六日町のホテルで改めて乾杯・昼食。「朝日酒造」見学・試飲。早めの到着で温泉を楽しみ、午後六時から大宴会。お銚子がずらりと並び始め、恒例のカラオケ大会とダンス。二次会で楽しい一時を過ごして夢の中へ。

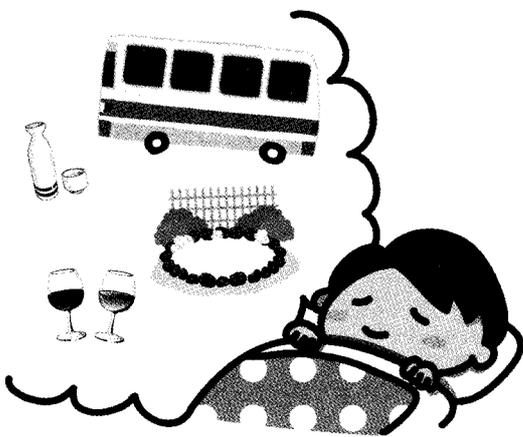
朝風呂で昨夜のアルコールを流し、朝食で一杯。通称「魚のアメ横」寺泊、泳ぐ宝石錦鯉発祥の地「錦鯉の里」へ。乾杯して「へぎそば」を味わい、一路所沢へ。飲んで、食べて、笑って明日へのエネルギーを充電する二日間の予定でしたが、来年度へ延期となりました。

さて、新型コロナウイルスの感染が収まらない中、拡大防止、会員の健康と安全面を第一に考え、本市においてもその対応に苦慮いたしました。

二月下旬、定期総会や親睦旅行案内の発送を控え、本年度前半の事業の中止を決定。定期総会は理事会に代えることにしましたが、理事会も中止したため書面による表決を実施し、その結果は郵送しました。

六月初旬、感染拡大が収まる見通しが立たないため、本年度の全ての事業の中止を決定し、会員に通知いたしました。

来年度は役員改選の年であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況、治療薬やワクチンの開発等を見据えて準備を進めています。



生きがい

二つの生きがい

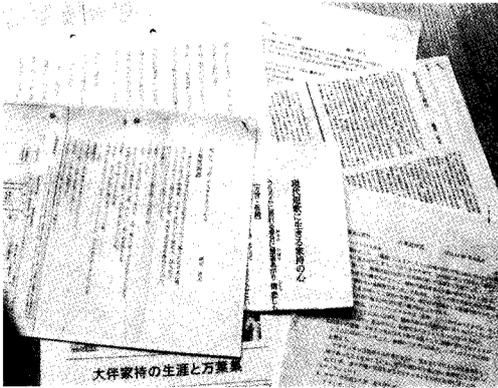
日高 横田武志

「生涯学習」という言葉が言われ始めて、もう久しい。そして、少しは定着したと思っている。

今、生きがいとして続けているのに二つある。「脳を元気にする会（脳元会）」と個人的には、短歌・俳句を詠むことである。

年齢を重ねるにつれて、段々、人と会う機会が少なくなる。何人か集まって、一杯飲みながらダベリングするのも、それはそれでいいものだが、それだけでは能がない。何か心にズシンと届くものがあつたのちに、一杯やる。

そこで、有志が集まって発足したのが「脳元会」である。月に一



脳元会スピーチ資料

回公民館に集まって、それぞれが学んできた研究を発表する。ある者は心理学、ある者は神社学、ある者は仏教哲学、そして薬理学、地震学と多彩である。わたしは、記紀、万葉を含めた古代史。それらを、交代でスピーチする。その後、アルコールを友にした食事会が意味深長で愉快である。もうひとつは、ボケ防止に始めた短歌・俳句の創作である。短歌のほうは、五年前に「高麗峠」と題して、歌集を出版することができた。俳句は、まだそこまで届いてはいないが、昨年、「正岡子規令和記念俳句大賞」で大賞の栄を賜り副賞に五万円の金券をいただいた。俳句も短歌も自分の位置を確かめる意味においても、投稿を続けていきたい。今、新型コロナウィルスの邪魔者が入って「脳元会」は活動休止中で残念のほかない。だんだんといま乗っている小舟が、彼岸のほうへ引き寄せられている気がするが、竿さして踏ん張っている。

東京大空襲に遭い、父も家も焼かれて、苦難の人生であつたが、終末期にあつては、満足してペー지를閉じたいものである。最後に小さい声でいうが、無上の生きがいは、妻とともに今もい

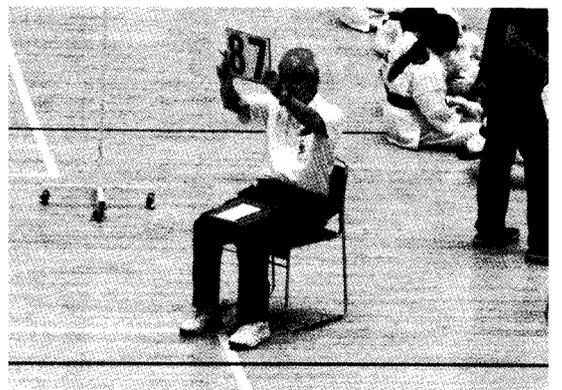
いまをしつかりと生きる

人間東部 吉田晴一

今年の三月末までは、市内の中学校で数学を週二日教えて、小学校では週二日放課後子ども教室を担当していました。そして、少林寺拳法を週二日、スポーツ少年団で教えていました。自分が好きな数学と少林寺拳法で子ども達と関わることができ、充実した日々を送っていました。だから今回のテーマ「生きがい」についてもすぐ書けると思いました。

ところが、三月から学校に子どもがいなくなり、少林寺拳法も体育館等の関係で出来なくなりました。コロナウィルス感染拡大防止対策のためです。前述のことが出来なくなつたのです。三月から六月までの四か月間「生きがい」についてじっくり考えることになりました。もちろん、七月からは少林寺拳法が本来の姿ではないですが、少しづつ出来るようになり、放課後子ども教室も二期から開校されます。そして、また充実した日々が再開され、それが生きがいになると思います。

いま、私は七十一歳です。年齢の關係でいつまでも学校に関わる事は出来ません。少林寺拳法は先輩達をみてみると後十年ほどはできるかと思えます。それでも、今



日本武道館での審判

までのように身体が動くとは思いません。その時、自分はどう生きているのか。そんな事を考え、悩んだり、本を読んだりしました。私が出した結論は「いまを樂しみながらしつかり生きる」です。その時々は何をしたらいいかを考え、一生懸命実行することです。先日、畑と庭の手入れをしました。きれいになった芝生を見ながら、こんな日々が大切なんだと考えました。その日の夕方、畑でとれた胡瓜やトマト等を肴にビールを飲んで、昭和で四〇年、平成で三〇年、そして令和で二〇年を一つの目標として目指そうと思えました。ありきたりですが、日々の積み重ねが人生になります。そして、未来をつくっていく事にもなります。

